

# 羊蹄NEWS&REPORT 2016

(羊蹄NEWS&REPORT 2016)



尻別岳から羊蹄山を望む

今年度も羊蹄山麓地域では、様々な景観に関する取り組みが行われました。ようてい・かわら版は、それらを記事にします。今回は、フットパスウォーキング事業を紹介し

## 「フットパスを歩く」

今年度は、羊蹄山麓3町村でフットパスウォーキング事業が行われました。

※注「フットパス」とは、イギリスを発祥とする『森林や田園地帯、古い街並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くこと』【Foot】ができる小径（こみち）

【Path】のことです。イギリスではフットパスが国土を網の目のように縫い、国民は積極的に歩くことを楽しんでいきます。近年、日本においてもさまざまな地域において、各々の特徴を活かした魅力的なフットパスが整備されてきています。

羊蹄山麓での「フットパスウォーキング」は、5月21日（土曜日）ニセコ町を皮切りに、真狩村で5月22日（日曜日）、倶知安町で9月22日（木曜日・祝日）に行われました。ニセコ町では、ニセコフットパスファンクラブ主催で「達人と歩く、文学歴史の散歩道」と題して、約10キロを工藤

発行 羊蹄山麓広域景観づくり推進協議会

(構成町村：蘭越町、ニセコ町、真狩村、留寿都村、

喜茂別町、京極町、倶知安町)

達人氏のガイドで歩きました。天候にも恵まれ、参加者はニセコの自然や歴史に触れることができました。工藤氏は、大変ユーモアのある方で、時折、冗談めいた説明で参加者を楽しませていました。

次の日は、真狩村でフットパスウォーキングが行われました。主催は、NPO法人しりべつリバーネット。参加者は3町村で一番多く、約5キロのフットパスを歩いた後、道の駅真狩フラワーセンターで焼き肉を楽しみました。主催者の一人、横山喜貞氏が参加者を楽しませ、終始和やかな雰囲気でした。

最後に、今年第1回目となるくつちゃんフットパスは、9月22日秋分の日に行われました。主催は、くつちゃん・羊蹄を楽しみ隊です。倶知安町旭ヶ丘公園のフットパスを歩いたこの事業では、老若男女、3歳から84歳までの参加者が集い、フットパスウォーキングを通して、講師の矢吹俊男氏や小野寺康人氏の説明から、倶知安の歴史や自然史を再認識していたように思います。来年度は、2回、3回と旭ヶ丘公園ボランティア整備と一緒に開催していくという事です。



今回のかわら版では、「フットパスを歩く」という事に特化したものになりましたが、花いっぱい運動や尻別川河川清掃事業等も行われ、この地域を守り育てていく事の大事さを再認識する事ができました。